

|教|員|の|研|究|紹|介|



健康栄養学科 教授
酒元 誠治

酒元研究室では、科学的な根拠に基づく栄養学(EBN)の研究を実施しています。2015年は、高齢化社会における社会負担を軽減するために、Frailty(虚弱)、Sarcopenia(加齢による筋肉量の減少)、Locomotive Syndrome(高齢者の運動機能障害)といった介護にいたる状態を予防するための基礎データを得る研究を、浜田市との共同研究「浜田市高齢者健康・栄養調査」として実施しています。

具体的には、エネルギーの摂取側の調査として、デジタルカメラを使った栄養調査を、エネルギーの消費側は加速度式歩数計を使った運動量調査を、その結果として体組成がどのような状態にあるのかをInbody s-10という体組成計を使った調査を実施しています。

ここでは、これまでに行ってきた研究成果として、身長が短縮して正確に測定することが出来ないため、正確なBMI(体重を身長²で除する、体格指数)を推計する方法としてふくらはぎ周囲長からのBMIを推計する方法を用いています。結果から科学的な介護予防の方法を見つけられれば、浜田市、島根県、日本にとって有意義な研究になりうると考えています。



保育学科 講師
梶間 奈保

私は作曲・音楽認知心理学を中心に研究を深めています。誰もが音楽に心弾ませ、音楽を楽しんで聞く瞬間があります。ですが、クラシック音楽だと「静かに聞かないと…」と敷居の高いイメージを持ったり、親子連れでのコンサートは周りの人を気にして躊躇してしまうなど、生身の音に耳を傾ける機会を制限してしまう方も多いのではないのでしょうか。

そういったことも含め、今年度は親子向けに生演奏で音の魅力や音楽の面白さを体感してもらう「音のレストラン」(コンサート)を実施いたしました。楽器から奏でられる音や音楽1つ1つに、クスリと笑ったり不思議に思ったり、そして自然と身体が揺れ動いたりと全身で音楽を受け止めている様子を見ることができ非常に嬉しく思いました。現在は、音楽を聴くよりも、音楽に付随するアーティストや視覚的情報を意識してしまう世の中です。本当の音楽の面白さは音を聴くことから出発します。音楽を聴いて楽しみ、そして生の音を身体で体感することで芽生える音楽の面白さ、その元となる種をこれからもまき続けていければと思います。



総合文化学科 准教授
塩谷 もも

「文化人類学の研究」という自己紹介をすると、それって何?と返されることが多いです。そのため、「インドネシアの文化研究」と省略してしまうこともあります。文化人類学の「文化」は非常に広く、人に関わるあらゆることが含まれます。そのため、自分の関心と調査地の状況にあわせて、様々な事を研究できるのが魅力です。

私がまず関心を持ったテーマは、「ジャワの食」でした。そこから「儀礼食を通じた近隣社会のつながりと女性」→「近代化とイスラムによる儀礼変化」→「ベールとイスラム服の拡大」→「イスラム服とバティック布の現代的な展開」と、これらを研究テーマにしてきました。

そして、もう一つの面白さは、フィールドワークに重点を置いた研究であることです。調査地との出会いは、偶然によるものが多いのですが、私の場合は、大学時代、民族音楽に関心を持ち、訪れたインドネシアになりました。行くとたびに会う新たな現象とわかあがる疑問、聞き取り調査や観察から何かを見つけた!と思える瞬間、これらを求めてジャワに通いつづけています。



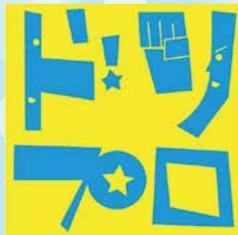
総合文化学科 講師
杉 岳志

彗星が一定の軌道上を周回する天体であることを、皆さんはご存知だと思います。しかし、そうした見方が一般的になったのは、200年ほど前のことに過ぎません。それまでは、彗星は天の異変、すなわち天変に他なりません。

江戸時代の日本では、様々な彗星の見方がありました。主なものを列挙すれば、次の通りです。①彗星は凶事の前兆である。②彗星は前兆ではなく、世の中の出来事とは無関係である。③彗星は悪政を敷く為政者に対する天の警告である。④彗星は星ではなく、気が上昇して発光したものである。⑤彗星とは別の「稲星」という豊作をもたらす星である。

残された史料から判断する限り、生類憐みの令で有名な徳川綱吉は、①と③の見方を取っていたようです。彗星を天の警告と受け止めていたとすれば、彼の政治は彗星に左右されたこととなります。

江戸時代の人々と彗星の関係について、これまで注目されることはほとんどありませんでした。しかし彗星に対する人々の反応を読み解いていくと、これまでとは異なる江戸時代の姿が見えてきます。



学生のヒラメキが、地域のキラメキに変わる 夢プランコンテスト キラキラドリームプロジェクト

平成25年度から始まった「キラキラドリームプロジェクト」は、学生が提案する夢プランに対して大学が費用を補助することで、そのプランの実現を応援しています。地域・企業の方々へ支えていただきながら活動を行っています。

プレゼンテーションでつかむ、活動資金

ドリーム枠 30万円以下×1件

キラキラ枠 10万円以下×2件程度

※エントリー時に、どちらの枠を狙うか指定します



公開審査会の様子

平成27年度の採択団体

7月の公開審査会を経て4組の団体が採択されました。2月の報告会まで活動をおこないます。



ゴーストみやげ研究所

小泉八雲ゆかりの怪談にまつわるおみやげを作るプロジェクトです。昨年度は企業とのコラボレーションで「ほういちの耳まんぢう」を作りました。今年度も、「小泉八雲」を知ってもらうための商品を作り、「怪談」＝「小泉八雲」＝「松江」をより定着させたいという思いで活動をしています。



革命短大生～国際ライフサポートプロジェクト

松江に住む外国人の方々に、少しでも安心して過ごしてもらいたいという思いで、行政のサポートが届きにくい部分を補うように、防災教育や交流事業を実施します。日本語が不慣れな方々には、英語文化系での学びを活かして、英語で分かり易く説明をします。



松江市感幸隊(まつえしかんこうたい)

照明・光を使ったアートで、夜の松江の観光活性化を図ります。松江の観光にプラスαの企画を提案し、若い年齢層を対象に「ふらっと立ち寄り」観光のきっかけ作りを考えています。



しまね三昧食品科学研究所

近年、全国的にイノシシやシカの捕獲数が増加しています。しかし、その捕獲されたものの1割程度しか食肉用として流通していない現状を知り、もっと有効利用できないかと考えました。そこで、健康栄養学科の学びを活かし、もっと美味しく食べてもらえるジビエの商品開発をおこなうことにしています。

詳しくはホームページで紹介しています。 <http://matsuec.u-shimane.ac.jp/campus/kirakiradream/>